

情報技術あれこれ（その2）

昨年1月の当欄で人工知能の話題に触れた。素人の視点で感じたことを書かせていただいたものだが、その後のほぼ一年間で、人工知能の話題が雑誌やネットを賑わせ続けている。またその応用についても多くの事例が紹介されるようになった。

そういったひとつに、将棋の羽生善治さんとIPS細胞の山中伸弥さんが語る書籍について一部がネットに公開されていた。そこで初めて知った点は

- ・「GitHub」というオープンソースソフト開発のウェブサービスが、将棋ソフト開発者たちの活動の場。
- ・このオープンソース（無料で公開されるプログラム）という仕組みが、チェスソフトを超える将棋ソフトの飛躍的なレベルアップをもたらした。

というもの。

ちなみに某テレビ番組によると藤井聡太棋士（7段に昇段しているのか本執筆時点の3月では分からない。すでにになっているのかも…）もAIにより将棋研究を重ねこんなに強くなったとのこと。もはやAIなしでは将棋業が成り立たないほどになっているのではと思わせる。

実は、このGitHub、私が知ったのはこの1年ほど前。コンピュータービジョン（CV）なるものにかじりだし、無料で使えるソフトはないかと探し回っていたときに知った。CVは複数視点の画像から共通の特徴点を抽出し、これを足がかりに三角測量の原理で元の立体形状を復元するジャンルである。自動運転やAR（拡張現実）などもこの技術を活用しているそうだ。この立体形状を生成するソフトも、それを表示するソフトもオープンソースで手に入る。さらに言うとCVで発生した数十万点の点群を処理し見やすく表示してくれる数式処理系SageMathやプログラミング言語Pythonもオープンソースである。

AIが人間を滅ぼすとか、機械と人間に境界線はないとか、火星移住だとか、まっとうな学者や実業家が冗談抜きで語るようになった昨今であるが、一方でこんなに便利なツールを誰でも使える環境が、今身近にあることが本当にうれしい。（私が20うん年来愛用しているawkもそう）

（耐寒材料チーム上席研究員 安中 新太郎）

* * * *

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。